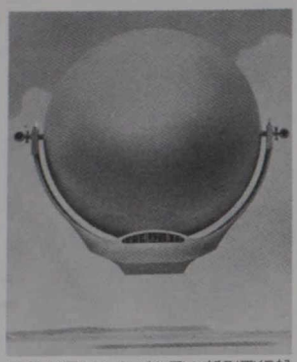
TOPICS

球形回転型の飛行船を開発
輸送や査察用に最適

飛行船といえば、これまで葉巻型というのが通り相場だったが、オタワにある技術開発会社が革命的ともいえる全く新しい形の飛行船を発表した。

この飛行船はＬＴＡ（空気より軽い）型と呼ばれ、ちょうど鳥の背中に大きな風船を乗せた形になっている。球体は、両側が翼の先端に固定されていて、水平軸にそって回転しながら飛ぶ。球体の真上と真下の圧力が異なるために推進力が働くもので（マグナス効果）、原理はちょうどゴルフや野球のボールが空中を飛ぶのと同じ。

この回転球状飛行船を設計したヴァン・ドウッセン開発会社では、直径六メートルの模型で実験を重ねているが、いずれは直径二十七メートルの軍事査察用飛行船と直径四十八メートルの輸送用飛行船にする計画。輸送用飛行船の最大運搬能力は大型ヘリコプターの十五トンに対し、四十五トンもあり、長いあるいは重い機器類の輸送、パイプライン敷設、鉄塔建設にも威力を発揮しそう。スピードは時速五十ノット以上、運転費用はヘリコプターの十分の一というから、省エネ時代にピッタリだ。


風船が回転しながら飛ぶ新型飛行船

外務・経済関係各省を改組
八〇年代の産業発展目指して

カナダ政府は一月末、先に発表した一九八〇年代の経済戦略（本紙前号参照）を推進する一環として、このほど外務省および経済関係各省の大幅な再編を発表した。機構変更は、関係法令の施行を待って実施される。

まず、経済開発担当省に新しく地域政策と政策調整を追加し、同省を経済・地域開発省と改称した。

また、地域経済開発省の地域計画部門と通商産業省の産業、中小企業、観光部門を統合して地域産業開発省を創設した。同省は地域経済戦略を支える政府の産業政策や産業計画を担当する。

さらにこれまで通商産業省に属していたすべての貿易業務を外務省に移した。輸出振興公社とカナダ商業公社も外務省に移管して、外務省を拡大強化した。

この改組について、トルドー首相は「政府は、カナダのすべての地域において経済発展を促進し、雇用を創出する措置を構じている。改組は、地域的、産業的状況の変化と国際貿易の競争の激化や複雑化に対応するために必要」と述べている。

再編成に伴い、、外務大臣（マッギガン氏）の下に国際的な社会・文化・人道問題、フランス語圏アフリカ諸国との関係などを任務とする対外関係担当大臣（ピエール・ドバネ氏）と、対外貿易や輸出促進を任務とする国際貿易担当大臣（エド・ラムリー氏）が置かれた。グレイ通商産業大臣は地域産業開発大臣となり、経済・地域開発担当大臣にはバッド・オルソン上院議長が就任する。

春の到来を告げる
メープル・シュガー作り

カナダの東部や大西洋岸で、春先の風物詩メープル・シュガー作りが進んでいる。

かえで林に深く積もった雪が解けかける三月、農家では家族総出で数百本、数千本のメープルに樹液採取用の蛇口とバケツを取りつけて歩く。そして翌日、バケツ一杯になった樹液を集め、スノーモービルやトラクターに載せた大きなタンクで加工場所まで運ぶ。加工場所は、農家の庭先のこともあるし、ちゃんとした製糖工場のこともある。

樹液が煮つまるのを待つ子供たち

集めてきた樹液は、いったん漉してから、平たい鍋で三段階に煮つめる。鍋の中が摂氏百四度になるとシロップとなり（これをホイップしたものがソフト・シュガー）、百十度でタッフィー、さらに百十四度になるとメープル・シュガーが出来上がる。作業が一段落すると、農家では出来たてのメープル・シュガーでご馳走を作り、親しい人を呼んでパーティを開く。

カナダ・トレード・センター
三年間で一千万ドルの商談

東京・池袋のサンシャイン・シティ内にあるカナダ・トレード・センターが、この一月で開設三周年を迎えた。

この三年間に同センターで開催された商品展は大使館主催のものだけでも二十七回。各社が単独で行った展示会を含めるとおよそ四十回にもなる。来場した日本の業界関係者は約一万人、成立した商談は一千万ドルに及ぶものと推測されている。

今年に入ってからは、すでにスポーツウェア・スポーツ用品展、毛皮展が開催され、四月以降には毛皮展、宝飾展、手工芸品・みやげ物展などが次々と予定されている。

カナダ政府が外国でトレード・センターを開設しているのは日本だけ。それだけに同センターの今後の成果が期待される。

カナダの対米赤字拡大
自動車貿易、日本車に人気

米加自動車協定にもとづく両国の自動車貿易は、相変わらずカナダ側の大幅赤字で、昨年は一月から九月までに二十億八千万ドルの入超を記録した。赤字額は、一昨年同期に比べて一億二千七百万ドルも多い。

これは主に自動車部品の大幅入超（三十九億ドル）によるもので、完成車のほうはむしろカナダ側の黒字となっている。乗用車の対米輸出は一昨年同期より二六パーセント、トラックなどの輸出も五五パーセント増えた。

米国以外の国との自動車貿易では、カナダ側の赤字が三億七千万ドルと、一昨年同期より九千万ドル減ったが、黒字だったトラック類の貿易は赤字に転じた。また日本車の人気が高く、市場占有率は